

## 第2章

### 県内の地域構造の現状と取組

## 第1節 県内各地域の現状分析と本県の主な取組

本県は、人口200万人を超える名古屋市を中心に、30万人を超える豊橋市、岡崎市、一宮市、春日井市、豊田市など、独自の産業や歴史、文化を持つ自立した諸都市が役割を分担しつつ連携する「多核連携型」の都市構造を有しています。また、本県は、大都市圏にありながら、県土の4割以上を占める森林や、伊勢湾・三河湾など、豊かな自然にも恵まれており、このような地域の多様性が本県の特色であり、また愛知の発展の礎となってきました。

このような地域特性を踏まえつつ、2014年3月に策定した「あいちビジョン2020」では、木曾川、矢作川、豊川の3つの河川を軸とした、尾張・西三河・東三河の3つの大きな地域ごとに、めざすべき将来像や地域づくりの方向性、主な政策を示しました。

一方、我が国が人口減少社会に移行し、東京への人口集中に歯止めがかからない中であって、「地方創生」が我が国の最重要課題のひとつとして大きくクローズアップされることとなりました。そうした中で、本県では2015年10月に、県としての「人口ビジョン」とその実現に向けた5か年の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。今後、市町村をはじめ、様々な主体と連携しながら、愛知の地方創生に取り組み、県内各地域の持続的でバランスある発展を図っていくこととしています。

今後、こうした地方創生の取組とも連動しながら、「あいちビジョン2020」に基づく施策を県内各地域で効果的に展開していくためには、県内各地域の現状や課題をきめ細かく把握していくとともに、市町村域を越えた地域間の結びつきなどを分析し、地域構造を明らかにしていくことが必要となります。

ここでは、県内市町村を「愛知県人口ビジョン・まち・ひと・しごと創生総合戦略」での地域分析と同じ下表の6つの地区に分け、人口動向をはじめ、土地利用、産業、医療・福祉など、各分野の基礎的な統計データによる分析を行うとともに、各地区における本県の主な取組を紹介します。

地区	構成市町村
名古屋	名古屋市
尾張北東部	瀬戸市、春日井市、犬山市、江南市、小牧市、尾張旭市、岩倉市、豊明市、日進市、長久手市、東郷町、大口町、扶桑町
尾張中西部・海部	一宮市、稲沢市、清須市、北名古屋市、豊山町、津島市、愛西市、弥富市、あま市、大治町、蟹江町、飛島村
知多	半田市、常滑市、東海市、大府市、知多市、阿久比町、東浦町、南知多町、美浜町、武豊町
西三河	岡崎市、碧南市、刈谷市、豊田市、安城市、西尾市、知立市、高浜市、みよし市、幸田町
東三河	豊橋市、豊川市、蒲郡市、新城市、田原市、設楽町、東栄町、豊根村

【地域の現状分析の区割り】

